

事後評価検証シート

○「地方創生推進交付金」検証シート

- ①大船渡市地域未来創発センターによる地場産業高度化・人材育成計画
- ②大船渡ふるさと交流センター発「三陸マリアージュ」創出・展開計画
- ③三陸沿岸に最適な周年生産施設型農業による夏イチゴ産地化計画
- ④スポーツ・アクティビティを中核とした体験型交流創出・展開計画

○「地方創生拠点整備交付金」検証シート

- ①スポーツ交流拠点形成推進計画

○「施策貢献度」について

検証シート中の「施策貢献度」については、次の2つの視点から貢献度を総合的に勘案し、A～Dで評価するもの

施策 貢献度	目的達成に向けた貢献度	重要業績評価指標
A	施策やプロジェクトの目的達成に向けた貢献度が大きく、進捗が図られたもの	当初見込み以上
B	施策やプロジェクトの目的達成に向けて貢献しているものの、進捗にやや遅れがみられるもの	当初見込みの7割前後
C	施策やプロジェクトの目的達成に向けて貢献しているものの、進捗がかなり遅れている	当初見込みの5割以下
D	施策やプロジェクトの目的達成への貢献が低く、進捗がかなり遅れているもの	当初見込みの3割以下

地方創生推進交付金 検証シート（令和4年度）

資料3 p2

地域再生計画名称	大船渡市地域未来創発センターによる地場産業高度化・人材育成計画
----------	---------------------------------

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績

（上段：目標値 下段：実績値）

総合戦略での位置づけ(施策・プロジェクト)	重要業績評価指標	単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績			目標達成率 (対R03実績)
					R01	R02	R03	
基本目標1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする 施策3 新産業創出と起業・第二創業支援 5 地場産業高度化・人材育成プロジェクト	① 導入試行プロジェクトの完了数	件	5	0	3 4	5 20	5 9	180.0 (累)33
	② 人材育成・実践プログラム参加者数	人	15	0	20 29	15 35	15 50	333.3 (累)11
	③ 産学官地域課題研究会参加数	者	3	0	9 7	3 3	3 6	200.0 (累)16
計画期間	令和1年度～令和3年度（3ヵ年）							

※「目標達成率」欄の(累)は、R01～R03実績の累計。

2 事業概要

<p>(1) 多様な地域課題解決に向けた産学官推進体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治大学のサービス創新研究所のサテライトラボを大船渡市ふるさとテレワークセンター内に開設。 ・同研究所と市、民間IT事業者、地元事業者等を構成員とし、IT活用により地元事業者等が抱える多様な地域課題の解決に向け、「産学官地域課題研究会」を設置（R1）。 ・同研究会で、地元事業者が抱える課題の抽出・整理、改善策を企画立案。 <p>(2) IT活用課題解決型人材の育成と実証活動支援の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産学官地域課題研究会」で、「IT活用課題解決型人材育成プログラム」（※）を構築し、実証活動の展開、効果検証、改善を繰り返すとともに、事業者自らによるITを活用した実証活動を支援し、実装化につなげる。 ・小中学生を中心に、論理的思考を養い、自立的に課題を解決していく力の育成を図る。 <p>※ 「IT活用課題解決型人材育成プログラム」 受講者自らによる「ITを活用した課題解決策を講じることができる人材への変容」を支援するための学習プログラム。</p>
--

3 令和3年度事業実績

(1) 産学官地域課題研究会運営・企画活動業務（産業政策室）5,973,431円【委託先：株式会社地域活性化総合研究所】

内 容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
<p>①活動方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じたDX（デジタル化を伴う自発的な変容）のきっかけづくりを支援する <p>②活動内容（オンラインで13回開催、研究者、事業現場、産業支援、普及の分野の16者で構成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○IT活用課題解決型人材育成プログラムの企画及びアンケート等による効果検証プログラムに対する評価は、約7割が10点満点中「9～10点」と評価 ○課題の抽出・整理 <ul style="list-style-type: none"> ・課題抽出 ⇒研究会構成員等を通じて「日頃感じている課題や疑問」をヒアリング ・課題整理の結果⇒共通して「事業の利害関係者との接点を見直すこと」が必要 ○支援方針：IT活用により利害関係者との接点を可視化し、事業者の自発的な変容を促進。産業の各分野において、他の事業者の変化を促すモデルになり得るか否かの検証も考慮。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度は、各構成員が自分ごととして関わり、また、知恵を出して取り組む形ができた。 ・R4年度から民間主導による自走化に移行。 ・研究会を通じて、経営者自らが、DXを含む経営全般を振り返る機会の創出に努める。

(2) IT活用課題解決型人材育成・実証活動業務（産業政策室）17,967,000円【委託先：株式会社地域活性化総合研究所】

内 容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
<p>①IT活用課題解決型人材育成プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式：直接指導の「ITスキルを学べる講座」と「参加者同士で学び合う場」 ・対象者：15～64歳のIT活用を始めようとする者 ・実施数、参加者数 41回（オンラインを基本、一部対面）、50人（延べ250人） ・参加者から発表されたIT活用プロジェクト数 4件 〔内訳〕 スマホによる注文受付サービス、業務管理のクラウド化、プロジェクションマッピング×2 ・その他 親子向けプログラミング教室の開催（4回、16名参加） <p>②実証活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 ヒアリングした10事業者のうち、「産業＞業界＞業種＞事業＞組織の各分野のモデルケースになり得る実証活動」に取り組む5事業者 ・成果 創出プロジェクト5件 <ul style="list-style-type: none"> ア 大船渡商工会議所 会議所SNS上に、会員事業者間の情報交換の環境をつくり、テスト運用（継続中） イ 住宅建材等の卸業者 住宅建築業界全体の営業力強化のため、工務店と連携してバーチャルモデルハウスを設け、住宅建築予定者向けにテスト運用（継続中） ウ 養殖漁業者 漁業の現場ルールの根拠を探る仕組みをつくるため、研究者と連携し、オンライン上で課題と根拠を投稿する掲示板を設け、有用性のテストを実施（継続中） エ 飲食店 コロナ禍における常連客との関係を維持するため、常連客とともに店主や店内客との会話が楽しめるバーチャル飲食店を設置（今後も随時運用予定） オ 商業施設経営組合 来場者の視点を経営に生かす仕組みをつくるため、SNS上に来場者がニーズを投稿する掲示板を設けるとともに、当該ニーズを経営層がオンライン上で「確認・検討・回答」する仕組みをつくり、来場者向けにテスト運用を実施（今後も随時運用予定） 	◎	<p>R4年度は、市の事業として継続予定。R3年度の検証結果に基づき「参加者がテーマを決めて実践的にグループワークをする」形式を試験的に実施。</p> <p>市において、R3年度の導入実績を周知するほか、岩手県等による中小企業デジタル化の取組と連携しつつ、地場産業のDXを推進。</p>

<p>献 策 度</p> <p>A</p>	<p>理 由</p> <p>重要業績評価は概ね達成しており、事業成果も出ている。</p>
------------------------------	--

地方創生推進交付金 検証シート（令和4年度）

資料3 p5

地域再生計画名称 大船渡ふるさと交流センター発「三陸マリアージュ」創出・展開計画

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績

（上段：目標値 下段：実績値）

総合戦略での位置づけ(施策・プロジェクト)	重要業績評価指標	単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績			目標達成率 (対R03実績)
					R01	R02	R03	
基本目標1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする 施策3 新産業創出と起業・第二創業支援 4 三陸マリアージュ創出・展開プロジェクト	① 「三陸SUN」での商品売上額	千円	20,000	10,000	12,000 13,591	16,000 13,393	20,000 27,726	138.6
	② 新たに開発した商品数	点	15	0	3 3	7 8	5 12	240.0 (累)23
	③ 商品に係る発表会・商談会等を通じた商品取扱成立件数	件	20	0	3 0	10 26	7 6	85.7 (累)32
計画期間	令和1年度～令和3年度(3カ年)							

※「目標達成率」欄の(累)は、R01～R03実績の累計。

2 事業概要

- (1)「三陸マリアージュ」商品の企画・販路開拓
 ・三陸地域の食品、菓子、飲料、酒類等の複数の商品を組み合わせ商品「三陸マリアージュ」の開発。
 ・首都圏の飲食店・小売店等のニーズ把握と流通ルートに係る調査等により明確化された「三陸マリアージュ」のコンセプトに基づく商品企画・試作品開発。
 ・首都圏における商談会や飲食店・小売店等への訪問などにより、試作商品のブラッシュアップと商談を実施。
 ・SNS等を活用した情報拡散や、展示会への出展を通じたブランド認知度の高揚による販路の拡大。
 ・三陸マリアージュ商品の地元飲食店での普及展開による市内への観光誘客。
- (2)「三陸SUN」を起点とする流通の共同化
 ・取引形態に応じた三陸SUNでの集荷配送、地元事業者からのダイレクト流通などを行えるシステムの開発。
 ・三陸SUNのバックヤード機能を活用して、首都圏企業での予約展示販売や首都圏イベントでの展示販売、ネット販売など販売チャネルの多様化。

3 令和3年度事業実績

(1)「三陸マリアージュ」取扱事業者等調査及び訪問開拓等・販売チャネル多様化展開業務（産業政策室） 8,999,925円 【委託先：株式会社流通研究所】

内容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
①ターゲットのリスト化 ・商品製造者等の関係者ヒアリング（㈱地域活性化総合研究所、㈱キャッセン大船渡） ・販売戦略会議の開催 参加店舗等）高島屋、プレジデント社、プロダクトデザイナー、野菜ソムリエ 等	○	・開発した「三陸マリアージュ」商品の継続的な訪問提案と、イベント等への出展による販路の拡大 ・「三陸マリアージュ」商品の購買意欲の醸成
②プロモーション展開及びニーズ調査 ・営業・販促ツールの作成 ・三陸マリアージュフェアの開催（3/11・神奈川県横浜市（やさいや金次郎）） ・友好都市関係団体へのアプローチ		・成約につながる可能性の高い顧客を育成するマーケティング活動
③商品の普及・販路拡大 ・食品関連イベント企画出展 ア アグノ・イノベーション2021（東京ビックサイト・交渉等26件） イ オリジナル商品開発WEEK・地域産品展（東京ビックサイト・交渉等38件）		

(2)「三陸マリアージュ」商品企画・試作開発業務（産業政策室） 13,472,250円 【委託先：株式会社キャッセン大船渡】

内容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
①商品企画及び試作品開発 ・新規開発件数 12品（料理人のメニュー開発シリーズ(5)、三陸アワビの漬けシリーズ(4)、三陸・海のうまみを楽しむ塩シリーズ(3)） ※既存製品改良 2品（越喜来プレミアムシリーズ）	○	・商品の継続的な開発とブラッシュアップ ・参画事業者の拡大 ・顧客層の獲得と囲い込み ・ブランドの維持継続に向けた資金調達や体制づくり
②テストマーケティング 三陸SUNでの販売試行、首都圏モニター及び首都圏・食の専門会議での試食会		
③プロジェクト推進体制づくり 参画事業者候補への聞き取り、チームビルディングWSの実施、アドバイザーの意見聴取		

(3)流通管理システム運用管理及び共同化構築業務（産業政策室） 6,993,800円 【委託先：株式会社地域活性化総合研究所】

内容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
○地域共同利用型システムの運用保守及び改善 ＜対象システム＞ ①三陸マリアージュマルシェ（オンライン上のショーケース）：システム改修等 ②三陸食べて応援プロジェクト：三陸を応援する企業等と連携したネットショップ環境の構築 ③三陸マリアージュCRM（顧客情報記録・管理） ④仕入管理：発注・納品・支払いの一元管理と自動化（システムのクラウド化） ⑤商品発掘管理：新たに発掘した商品に係る各種情報をデータとして蓄積できるシステム ⑥販売管理：見積から納品・請求・収納消込に至る総合的管理システム ⑦在庫管理：仕入管理と販売管理を取引の一連で管理できることに加え、拠点ごとに在庫の状況がリアルタイムに把握できるシステム	○	・三陸食材への関心の高い飲食店等の「三陸マリアージュマルシェ」の会員登録者数の増加 ・地域共同マーケティンググループメンバーの拡大 ・顧客獲得に向けたシステムのブラッシュアップ

資料3 p6

施策貢献度	B	理由	重要業績評価指標は概ね達成しており、事業成果も概ね出ている。
-------	---	----	--------------------------------

地方創生推進交付金 検証シート（令和4年度）

資料3 p8

地域再生計画名称 三陸沿岸に最適な周年生産施設型農業による夏イチゴ産地化計画

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績

(上段：目標値 下段：実績値)

総合戦略での位置づけ(施策・プロジェクト)	重要業績評価指標	単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績			目標達成率 (対R03実績)
					R01	R02	R03	
基本目標1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする 施策3 新産業創出と起業・第二創業支援 7 夏イチゴ産地化プロジェクト	① イチゴ生産額（生産量×平均単価）	千円	42,000	0	1,365 0.0	15,120 6,200.0	25,515 10,800.0	42.3 (累)17,000
	② 三陸沿岸地域運営施設での生産面積	ha	0.40	0.00	0.13 0.13	0.40 0.13	0.40 0.42	105.0 0.42
	③ 施設での雇用人数	人	9	0	5 1	2 4	2 4	200.0 (累)9
	④ 耐侯性多用途木骨ハウスの整備面積	ha	0.34	0.00	0.00 0.19	0.17 0.04	0.17 0.29	170.6 (累)0.52
計画期間	令和1年度～令和3年度(3ヵ年)							

※「目標達成率」欄の(累)は、R01～R03実績の累計。

2 事業概要

- (1) イチゴ生産大規模化による高付加価値農業への転換と産地ブランド化の推進
- ・高付加価値農業の展開と農業者の増加を目指し、年間を通じた生産・販売体制の構築に向けた施設営農リーダーを育成。
 - ・農業系人材サイトへの広告展開や就農体験を提供し、新規就農者の確保を図る。
 - ・就農相談者等を対象に生産技術の普及を図るとともに、小規模な既存ハウスでも可能な生産技術の試験実証活動を実施。
 - ・夏イチゴ産地化構想を策定し、構想を踏まえた周知・普及定着活動を展開。
 - ・加工商品等の検討に向け、菓子製造業や食品製造業等の民間事業者と連携し、試作品開発や産地見学会を実施。
 - ・イチゴ生産・担い手育成拠点施設の整備。
- (2) 間伐材等の木材利用拡大の取組
- ・木材を活用したイチゴ生産を行う木骨ハウスをはじめとした木製品開発のための試作品開発指導や試作品企画等による木材の新たな利用方法を検討。

3 令和3年度事業実績

(1) 生産技術普及・展開実証業務（産業政策室） 999,750円【委託先：株式会社リアスターファーム】

内容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
①夏イチゴ生産技術等周知活動等（※自主事業も含む） 施設見学対応：26回（延べ156名）、取材・講演会対応：15回 ②就農相談、技術相談対応（技術相談等5回 延べ6名） ③就農ガイドの作成	○	・生産技術の普及による担い手の確保と育成

(2) 夏イチゴ産地普及定着推進及び加工品等商品化支援業務（産業政策室） 5,393,300円【委託先：ブランドストーリー】

内容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
①夏イチゴ産地化推進を図る協議会の設立・運営（協議会3回開催） ○構成：(株)リアスターファーム、三陸ふるさと振興(株)、越喜来地区公民館、大船渡市農業協同組合、大船渡金融団、岩手県菓子工業組合気仙支部、いざ大船渡、岩手県沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター、大船渡市（商工港湾部産業政策室、農林水産部） ○主な取組：産地化構想に基づくロードマップの作成により協力体制を構築 ②イチゴの魅力創出に向けたイベント企画・運営、状況発信 meet Up! in 仙台（参加者22人）、meet Up! in 盛岡（25人）、産地見学会（8人） ③夏イチゴ加工品等商品化の支援 ヒアリング事業者（11社）、商品化支援（2社）	◎	・夏イチゴ産地化構想に基づくロードマップの推進

(3) 地元材木製品等研究開発業務（産業政策室） 4,971,450円【委託先：有限会社コンテンツ計画】

内容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
①木材加工品等の商品企画提案の具体化に向けた（研究会）勉強会の企画運営 ○目的 ・木材活用の事例や製品開発のノウハウを学ぶ。 ・個別でのコンサルティングやアドバイス支援を通じ、新しいアイデアを取り入れた木材・木製品の活用に展開。 ・地元材活用や間伐材利用促進につながる取組を共有し、今後の活動への基礎づくり ○参加人数 27人（延べ57人） ○成果：参加者でグループを構成し、商品企画プレゼンとして3件のアイデアが創出 ②木材・木製品加工等に係る関連事業者へのヒアリング（4者） ③木材を活用した農業用施設の汎用型パッケージの商品展開検討及びPR活動の企画・運営	○	・民間事業者による主体的な取組を推進する体制づくり

(4) イチゴ生産・担い手育成拠点施設整備事業（産業政策室） 11,480,000円【補助先：株式会社リアスターファーム】

内容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
整備棟数：3棟（※完了：令和3年5月26日） ・栽培棟3棟 計0.29ha(0.11ha*1棟、0.10ha*1棟、0.08ha*1棟) ・補助対象事業費（総事業費）：118,720千円 ・令和3年度支出額：11,480千円	◎	※整備完了

献策度	B	理由	重要業績評価指標は概ね達成しており、事業成果も概ね出ている。
-----	---	----	--------------------------------

地方創生推進交付金 検証シート（令和4年度）

資料3 p11

地域再生計画名称	スポーツ・アクティビティを中核とした体験型交流創出・展開計画
----------	--------------------------------

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績

（上段：目標値 下段：実績値）

総合戦略での位置づけ(施策・プロジェクト)	重要業績評価指標	単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績			目標達成率 (対R03実績)
					R01	R02	R03	
基本目標2 大船渡への新しい人の流れをつくる 施策1 多様な主体による交流人口の拡大 6 スポーツ・アクティビティ体験型交流創出・展開プロジェクト	① 当事業による観光入込客数	人	10,400	1,116	1,500 0	8,600 1,000	10,400 14,111	135.7
	② 当事業の提供事業者数	者	12	3	2 0	3 1	4 5	125.0
	③ 甬嶺復興交流推進センターの宿泊等施設利用者延べ人数	人	9,800	0	0 -	6,400 1,013	9,800 4,945	50.5
計画期間	令和1年度～令和3年度（3カ年）							

※「目標達成率」欄の(累)は、R01～R03実績の累計。

2 事業概要

<p>(1) 異日常体験プログラム等による地域ぐるみの提供体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元にある自然・文化・仕事といった「日常」の資源を掘り起こし、異日常体験プログラムに転換できる可能性を調査。 ・スポーツ・アクティビティ事業者、観光関連事業者、農林漁業者等で組織を設立し、サービス等の情報を一括して閲覧できるほか、予約受付等ができるプラットフォーム（ホームページ）を構築・運用。 ・ローカルツアーの商品化に向けて、「体験する・泊まる・食べる・買う」を有機的に組み合わせたモデルツアーの企画及び実施を支援し、事業者間での連携を強化。 <p>(2) スポーツ・アクティビティを中核とした受入・交流拠点の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉校となった旧甬嶺小学校を宿泊機能を持つ、三陸沿岸のスポーツ・アクティビティの拠点施設「甬嶺復興交流推進センター」として改修。 ・スポーツ・観光関連サイト等への情報発信や、若年層を対象としたモデル体験会等を実施。 ・新たなスポーツ・アクティビティ提供事業者の誘致活動や事業創出の支援を実施。 ・体験プログラムや、地元の食・製品の体感型紹介イベントを開催し、主に県内陸部等の近隣からの誘客による新たな客層の開拓・拡大。
--

3 令和3年度事業実績

(1) 観光関連事業組織化・事業化支援等業務（産業政策室） 12,000,000円（委託先：株式会社リクルート）

内 容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
<p>①観光関連事業者等の組織化及び事業実施の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三陸アクティビティ推進協議会」の運営支援（4回） 構成：(株)三陸アクティブ、合同会社T X F、NPO法人三陸ボランティアダイバーズ、三陸ふるさと振興(株)、岩手開発産業(株)、市、市観光物産協会、地元自治会ほか ・プログラム造成、受け入れ体制整備、事業化に向けたスタートアップ支援（5事業者） <p>②地域観光情報プラットフォームホームページの運用管理</p> <p>③ローカルツアーモデルの企画、実施及びフォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の体験型の観光素材を組み合わせたローカルツアー及びファミトリップ（旅行事業者やブロガー、メディアなどに現地を視察してもらうツアー）の企画・実施・検証（11名参加：地域内8、域外3） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・甬嶺復興交流推進センターを拠点とした更なる体験プログラム等の造成 ・受入態勢の整備、充実 ・推進協議会の自走化支援 ・ホームページの適正な運用管理

(2) 新規集客確保及び事業者誘致・創出支援等業務（産業政策室） 5,000,000円（委託先：株式会社リクルート）

内 容	KPI貢献度	課題、今後の方向性
<p>①新規集客確保及び事業者誘致・創出支援業務</p> <p>各種体験プログラムを周知及び集客するため、多様な媒体における情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ア (株)リクルート提供 “じゃらん” 遊び体験⇒掲載した7者のうち5者が随時受け入れ可 イ “ ” 提供 “じゃらんnet” にランディングページの掲載⇒2か月×2回 ウ “ ” が出版する “じゃらん⇒東北MOOK2022-2023” の行政公告掲載 エ ホームページ “遊ぼう大船渡” ⇒掲載した7者うち5者が随時受け入れ可 <p>②体感型イベント開催業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ア モニターツアー及び意見交換会（4人参加：旅行会社スタッフ及びカメラマン） イ 市民、近隣住民を対象としたスタンプラリーの開催（2/11～3/18、参加ユーザー数303人） ウ アウトドア専門メディアを誘致しての未開発コンテンツ・エリアの視察及び意見交換（3/16～17） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・観光及びスポーツ関連媒体等への体験プログラム等の効果的かつ継続的な情報発信

<p>献度</p> <p>策</p> <p>貢</p> <p>C</p>	理由	一定程度の成果は出ているものの、重要業績評価は達成できていない。
--------------------------------------	----	----------------------------------

地方創生拠点整備交付金 検証シート（令和4年度）

地域再生計画名称	スポーツ交流拠点形成推進計画	資料3 p14
----------	----------------	---------

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績

（上段：目標値 下段：実績値）

概要	重要業績評価指標	単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績					目標達成率 (対R03実績)	
					H29	H30	R01	R02	R03		
基本目標2 大船渡への新しい人の流れをつくる 施策1 観光誘客による交流人口の拡大 1-1 スローシティ大船渡プロモーションプロジェクト	① 赤崎グラウンド利用収入増加額	単	千円	1,200	121	450	800	1,000	1,100	1,200	114.3
						134	1,096	1,504	1,248	1,371	
基本目標4 大船渡で生涯暮らし続けられる地域をつくる 施策3 持続可能な都市環境づくりの推進 3-2 公共施設適正配置とリノベーション推進プロジェクト	② 赤崎グラウンド利用者延べ人数	単	人	42,000	16,200	7,700	30,000	35,000	38,500	42,000	48.2
						5,673	16,493	16,743	19,925	20,243	
	③ 赤崎グラウンドでの競技会等の利用に伴う宿泊者延べ人数	単	人	2,600	0	720	1,500	2,000	2,300	2,600	24.3
						110	683	391	189	632	
	④										
	⑤										
計画期間	平成 29 年度 ~ 令和 3 年度 (5 ヵ年)										

2 交付金事業の計画内容・進捗状況・課題

計画内容	進捗状況（計画に対して何をしてどのような成果であったか）	課題（進捗状況を踏まえて残された課題は何か）	施策貢献度
<p>平成29年度に赤崎グラウンドの人工芝舗装整備やクラブハウス及び観客席等を整備し、競技グラウンドとしての魅力を向上させながら、一般財団法人大船渡市体育協会や大船渡市サッカー協会、Jリーガーの有志で組織する「東北人魂」等と競技会やイベント等を企画・運営することにより、スポーツ合宿等を誘致して市内外からの利用者の増大を図る。</p> <p>また、一般社団法人大船渡市観光物産協会と連携して、市外からの利用者向けに地元体験プログラムや民宿等の紹介、誘客活動を展開することで、交流人口の拡大と観光関連産業の振興施策との一体的な事業を実施する。</p>	<p>平成29年度に赤崎グラウンドの人工芝舗装整備及びクラブハウスの新設や附帯設備等の整備が完了し、利用者数、宿泊者延べ人数は目標値に届かなかったものの、開設以降、サッカーを中心に利用者は増加し、ジュニアを対象としたサッカー大会が開催されている。</p> <p>また、一般財団法人大船渡市体育協会や大船渡市サッカー協会等と連携し、合宿やトレーニングマッチ等での誘客を図るとともに、岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合大船渡支部等と大船渡市スポーツ交流推進連絡会議を設立し、宿泊者の確保に向けた取組を行った。</p> <p>平成31年1月に大船渡市スポーツ合宿支援補助金を制定後、アンケートで赤崎グラウンドの利用に前向きな県内の高校サッカー部を訪問し、各校の合宿状況を伺い、制度の説明とPRを行った。</p> <p>降雪の少ない1月開催のジュニアサッカーの交流大会は定着し、平成30年度からは同じく1月に高校年代の交流大会も開催されるようになった。</p> <p>令和2年度以降、小・中学校・高校の各種大会の定期的な開催のほか、市スポーツ合宿支援補助金を活用した団体利用等、スポーツ交流拠点として着実に浸透し、利用者の増加とそれに伴う宿泊者の増加がみられた。</p>	<p>年間を通じて広くスポーツを楽しめる拠点として市民をはじめとする利用者の増加を図りながら、コロナ禍における、「ウィズコロナ」による「新たな生活様式」下で、一般財団法人大船渡市体育協会、大船渡市サッカー協会等のスポーツ関係者と宿泊・観光関係者が連携し、宿泊や観光展開を見据えた継続的な取組が必要である。</p> <p>大船渡市スポーツ交流推進連絡会議を活用し、いわてスポーツコミッション事業（スポーツイベント等の誘致・開催、スポーツ合宿等の誘致・支援等）との一層の連携を図る。</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p><理由> 重要業績評価指標の利用収入増加額が目標値を達成した一方、利用者数、宿泊者延べ人数は伸びを見せているものの、目標値を達成できなかった。</p>
担当課	生涯学習課	生涯学習課	生涯学習課

3 今後の対応

<p>赤崎グラウンドの利用に伴う地元チームの競技力向上に加え、宿泊者数の増加のため、社会人等によるサッカー教室の開催を検討する。</p> <p>大船渡市スポーツ交流推進連絡会議を活用し、合宿等の受入に必要な宿泊情報を始め、観光情報をSNS等で発信する。</p> <p>また、市ホームページ等Webサイトの充実を図るほか、県内高校への誘致活動を行う。</p> <p>宿泊者の増加につながるよう、大船渡市スポーツ合宿支援補助金要綱の交付要件の緩和（市内宿泊を定住自立圏に拡大）等を検討する。</p>
